

その他の報告

■アサヒビールからの寄附金(自主事業)

アサヒビール様より「はまなこ環境ネットワーク」の活動に対し、寄附金が贈呈されました。

3月14日に芥川会長が静岡県庁内でアサヒビールの静岡支社長から目録をいただきました・

浜名湖のアマモを回収する活動などに対する寄附金です。このような企業との協働は大歓迎です。

大切に活用させていただきたいと思っております。



■浜名湖の魅力発信！活動団体の現場見学ツアー(関連事業)

■日 程 平成26年2月22日(土) 8:30~16:30

■場 所 浜松市北区細江町～舘山寺～村櫛～舞阪～湖西市新居の8箇所

貸切バスで浜名湖を半周。環境保全、観光、歴史文化、まちづくりなどに取り組む団体の現場を訪ねて交流する事業を行いました。現地では活動団体や企業が自慢の活動を紹介してくれました。もう半周ありますね。次年度は西半分を廻れたらと考えています。



小学校でアマモの堆肥で育てた野菜

浜松市立北庄内小学校や南庄内小学校と協働して、アマモの堆肥で児童が一生懸命育てた野菜も大きくなりました。浜名湖の環境や地域の歴史などを知ってもらう機会となりました。

この取組は平成26年度も継続していきたいと考えています。



【事務局からのお知らせ】

はまなこ環境ネットワークでは、活動団体の仲間を随時受付しています。ホームページから登録申請書をダウンロードしていただくか、あるいは事務局までお問い合わせください。http://www.hamanako-kankyo.net/

はまなこ環境ネットワーク 広報誌

発行/はまなこ環境ネットワーク

第21号

発行日/平成26年3月22日

事務局/NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net

はまなこ環境通信

3/15 浜名湖環境保全活動交流会を開催しました

浜名湖の環境保全・活用に取り組む団体や企業の活動を知り合い、連携のための情報交換を行う会を開催しました。



- 日 時
平成26年3月15日(土)13:30~17:00
- 会 場
舞阪文化センター3階大会議室
- 展示・活動発表
環境保全活動等の団体・企業(12団体)

浜名湖での連携活動の事例として、はまなこ里海の会の観光と漁業による、環境保全の連携事業や、はまなこ環境ネットワークの「アマモ利用&ラムサールプロジェクト」の連携事業の紹介がされました。



活動団体や企業の取組を企業や団体がパネル等を使って紹介しました。

団体の活動を紹介するだけでなく、各団体が抱えている課題の解決や活動を活発化させるために他団体に求めている具体的な連携についても提案がなされました。

活動紹介を終えて、参加者が相互に情報交流し、浜名湖花博の開催を節目として新たな連携事業などが話し合われました。浜名漁協の女性部が立ち上げた「浜名っ娘クラブ」が販売している「しらすコロッケ」の取組を聞きながら、試食も行いました。

また、舞阪文化センターから眺める弁天島のいかり瀬の美しい眺望は、同センターの閉館によりこれが最後となりました。



交流会・マッチングタイム



舞阪文化センターからの弁天島いかり瀬の眺め

1月18日「アマモ」の堆肥で育てた野菜の収穫祭&食の交流会

■野菜の収穫祭

1月18日(土)浜松市西区村櫛町の畑で浜名湖のアマモを堆肥にして作った野菜を収穫しました。館山寺のサンビーチに流れ着いたアマモを回収し、村櫛町の畑で夏から秋にかけて、昔のようにアマモ(海草)を回収して、畑に堆肥として入れて育てた野菜を収穫しました。



参加者は約60名、NPOむらちゃネットさんの協力で大きく育ちました。今回も秋に台風が直撃し、塩害で葉っぱが枯れてしまい、植え直しもしました。それでも大根などは立派に成長していました。

アマモと牛肥を交互に入れて、比較してみました。大きな違いは判りませんでした。アマモでも野菜は十分に作れることを確信しました。



収穫した野菜は、大根、ニンジン、ジャガイモ、白菜。たくさん収穫できたので、お昼に行った食の交流会に使うだけでなく、参加者にも持ち帰ってもらいました。

■浜名湖の食の交流会

浜名湖ガーデンパークへ移動し、アマモで作った野菜とモズクガニ(ズカニ)やノリを入れたカニのみそ汁、豚汁で試食会をしました。この日料理していただいたのは、NPO法人むらちゃネットのみなさんでした。



第2回浜名湖エコワークショップ

1月18日の収穫祭&食の交流会の終了後、浜名湖の環境保全活動の課題と今後の取組について話し合うワークショップを開催しました。

■浜名湖の環境保全に関する講和

はまなこ環境ネットワークの芥川知孝会長が、浜名湖の環境について、環境の変化と地域と里湖としての関わり、はまなこ環境ネットワークの役割及び環境保全活動の紹介を行いました。

美しく豊かな浜名湖を守っていくためには、浜名湖の周辺で暮らす多くの人々が協働し連携を図っていくことが重要であると、参加者に呼びかけました。



■循環型環境保全活動の事例紹介

まず、EM倶楽部/湖西代表の疋田氏が、浜名川にEM団子や米のとぎ汁を投入して河川の浄化活動や学校のプール清掃への活用などの事例を紹介しました。3月には、EMを使った市民農園「あらゐ市民農園『楽菜』」も紹介されました。

次に、(有)宮本肥料の宮本専務が、有機肥料を使ったおいしい野菜づくりについて、市販のハウレンソウと自家栽培のハウレンソウを比較しながら説明した。浜名湖での取組みとして、アマモの堆肥化に取り組み、商品化ができたことの紹介もされました。



日本野鳥の会遠江の増田氏より浜名湖に飛来する野鳥や生息数や野鳥観察会の様子などの紹介がありました。野鳥が多く生息する場を守っていく活動も必要であると語りました。

■グループワークショップ

4つのテーマでグループに分かれ、今後の活動のあり方を活発に話し合いました。

- A: 浜名湖でどんな体験ができる! (利活用・観光)
- B: 浜名湖の資源アマモの活用 (農業に活かす等)
- C: 生態系を守る・育てる、浜名湖の生き物
- D: 環境を守る! 生活者としての守り方

浜名湖の環境を次世代につなげていくために、浜名湖の魅力を発信し、それぞれの活動を継続していくしくみづくり、活動成果をPRしていくこと、そして、より多くの人に周知する活動などの重要性などが話し合われました。

